

1 第178号

日経平均株価

2万1344円92銭

▼57円21銭(前日比)

TOPIX

1549.42

▼1.29(前日比)

2019

5/13

月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



# G20で世界へ向け発信!

## Society 5.0で目指す未来社会



### 新たな価値を産業、社会へ

平成から令和へと時代が移行し、新天皇の即位という歴史的な一大イベントが無事通過したところで、次の関心は7月実施の参院選へ向けた安倍政権の政策動向に関心が移りそう。令和という新たな時代を迎えて長期視野での今後の国の在り方を示す必要があるが、その方向性を確認する意味で6月28日から開催されるG20大阪サミットが注目される。世界主要国の首脳が集う場で安倍総理は「Society 5.0」を紹介する方針で、新たなテーマとして市場でも話題になる。

Society 5.0とはサイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society

Society 5.0で目指す日本の未来とは?

2020年までの議論を推進していくと発信している。今までの情報社会では、人間が情報を解析することによって価値が生まれてきたが、Society 5.0では、膨大なビッグデータを人間の能力を超えたAIが解析し、その結果

ロボットなどを通して人間にフィードバックされることで、これまでには出来なかった新たな価値が産業や社会にもたらされる。これを目指すには高度な技術を持つ企業と連携してAIを様々な分野で発展させる必要がある。G20が大阪で開催されることから、世界的には関西企業が注

日経平均日足チャート



目されそう。業界初のAI搭載マシンオートメーションコントロールを開発したオムロン(6645)や2021年までに全家電製品群でAI搭載を目指すパナソニック(6752)、グローリー(6457)傘下で音声認識技術を生かした生体認証の研究開発進展が期待されるフューレットク(2468)、様々な企業と連携してIoTの取り組みを推進するホシデン(6804)などが注目される。

今週の動意銘柄

村田製は急落し安値

18%営業減益見込み失望売り

連休明け7日、村田製作所(6981)が急落、年初来安値を更新した。20年3月期の連結業績は営業利益2200億円(前期比17.5%減)と市場コンセンサスの3200億円を下回り、大幅減益を見込んだことが嫌気された。電子機器の生産調整や電子部品の在庫調整に伴う操業度低下と製品

M&Aキャピ大幅増額

7日、M&Aキャピタルパートナーズ(6080)がスト

期の連結業績予想を大幅に上方修正した。売上高を95億4800万円から115億7000万円(前期比43.5%増)、営業利益を38億9800万円から51億8100万円(同63.7%増)へ。大型案件の成約、単価が予想を上回り、コンサルタント数も増加している。

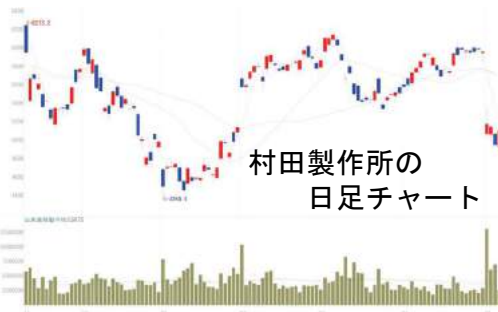
アルヒS安で新安値

7日、アルヒ(7198)がストップ

安まで売られ年初来安値を更新した。1%程度の固定低金利で長年借りられる住宅ローン「フラット35」を不動態産投資に使う不正が起きていると伝わったことを悪材料視。住宅金融支援機構も不正を確認すれば全額返済を求めるとしており、「フラット35」を中心に住宅ローン貸付、回収を行う同社には収益と事業運営への影響を懸念した売りが殺到した。

正直いいさんの株で大判小判

10連休明けの5月第2週は波乱となり、トランプ大統領のツイートを引きました。米中貿易摩擦懸念の再燃でリスク回避の動き、9日のニューヨーク市場でダウが一時400ドル超の大幅下落と、なつた局面では、一転してポジティブなツイートを発信したことで、買い戻しの動きとなり、その地合いを引き継ぎ、値を振り回さるに振り回さる内容を消すな内容はどう全決着に時間を要します。国内外市場のマーケットが、銘柄選別を中長期方針の日ホスピス(7061)が最高値更新、短期値幅取り候補ではカオナビ(4435)が大幅高です。内需デیفエンシブやバイオ株などのリバウンド狙いはもう少し様子見です。花咲翁



村田製作所の日足チャート

増収増益 シュッピン

8日、シュッピン(3179)が急反発、年初来高値を更新した。20年3月期の単独業績は、売上高376億7200万円(前期比8.9%増)、営業利益15億7400万円(同9.0%増)と増収増益を

トヨタ一時プラス

8日、トヨタ自動車(7203)が動意。20年3月期の連結業績は売上高30兆円(前期比0.7%減)、営業利益2兆550

予想。同時に発表した4月売上高が前年同月比13.5%増と順調なスタートを切ったことも買い気を誘った。

0億円(同3.3%増)を見込み、同時に上限5000万株(発行済株式総数に対する割合1.73%)または3000億円(取得期間は5月15日~9月30日)の自己株式取得枠の設定を発表したことで一時はプラス圏に買われる場面があった。業績予想は市場コンセンサスを下回って

日信号増収益で自社株買

8日、日本信号(6741)が年初来高値を更新。20年3月期の連結業績は売上高1050億円(前期比5.1%増)、営業利益75億円(同7.1%増)、純利益は57億円(同7.4%増)と前期に続き増収増益を見込み、同時に上限300万株(発行株の4.60%)または35億円の自己株式取得枠を設定した。

### 二番底形成か二段下げか

先週から令和時代の相場がスタートしましたが、4日続落となつてしまいました。米中貿易交渉が暗礁に乗り上げたことが要因ですが、昨年12月安値から4カ月間、世界各国の株式市場は順調に回復してきました。そしてこの5月は多くのヘッジファンド筋が決算を迎えます。反対売買が出やすい5月という時間軸からも元々売られやすいという曲がり角を迎えていた訳です。

また、通常は急落後のV字回復よりも二番底形成後に立ち上がるケースが多く、ここでの急落は昨秋の急落に対する二番底形成か、或いは二段下げに向かう厳しい急落なのか、という局面だと考えます。足元では騰落レシオが80%割れとなり売られ過ぎ感が台頭してきましたが、TOPIXの崩れがひどく、当面は短期的なリバウンド局面も戻り売りとなりましよう。

日々勇太郎



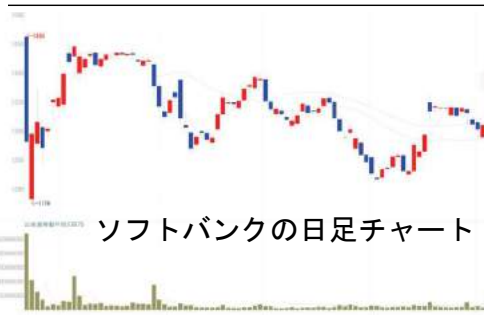
### 転ばぬ先のテクニカル

増)、営業利益8900億円(同3・5%増)と増収増益を見込み、年間配当を85円(前期は年間換算で75円)へ実

## ソフトバンク続騰

### 好業績で増配、ヤフー子会社化

9日、ソフトバンク(9434)が続騰。20年3月期の連結業績は売上高4兆8000億円(前期比2・1%



ソフトバンクの日足チャート

質増配すること、感された。併せてヤフー(4689)の株式を追加取得して連結子会社化すると発表したこと、収

益貢献と連携強化による今後の業容拡大も期待された。ヤフーはソフトバンクに302円で15億147万8050株を割り当てるが、割当価格を上回る341円まで買われた。

### 島精機14%営業減益

9日、島精機製作所(6222)が急落。20年3月期の連結業績は売上高523億円(前期比1・8%増)、営業利益40億円(同13・8%減)と2ケタ減益を見込んだことが嫌気された。アジアでコンピュータ横編機の需要が急速に縮小しており、独自のホールガーマント技術の活用による非衣料市場へ

## ニホンフラッシュES高で新値

週末10日、ニホンフラッシュ(7820)がストップ高、年初来高値を更新した。20年3月期の業績予想を発表、連結売上高310億円(前期比25・4%増)、営業利益46億円(同29・4%増)と大幅な増益を見込んだことが材料視された。業務内容の見直しや工場レイアウト改善、省力化設備の導入などで、生産性向上に向けた取り組みを継続、経営の効率化を目指す。

### サイバネットがS高

9日、サイバネットシステム(4312)がストップ高。19年12月期第1四半期の連結決算で、

の横編機の展開や自動裁断機の強化など、幅広くビジネス領域を拡大するとしており、中期経営計画の下方修正も行った。

### プロパティA21%減益

10日、プロパティエージェンツ(3464)が急落。20年3月期の業績予想について、連結売上高220億円(前期比2・2%増)、営業利益13億6000円(同21・4%減)と大幅な減益を見込んだことが嫌気された。不動産クラウドファンディングを開始する予定で、その成功のカギとなる会員数を初年度に多数集客すべく、先行して集

### ヴァインクス2Q増額

10日、ヴァインクス(3784)が急反発。19年12月期第2四半期累計の連結業績予想について、営業利益を6億9500万円から7億500万円に引き上げた。決算期変更と比較はないが、実質で2ケタ超の増益となり、同時に発表した第1四半期は6億4300万円を着地したことから一段の上振れの期待された。

## 今週の動意銘柄

## ～決算情報～

### ハリマ化成グループ

## 保守的にも増収益で連続増配 中国新製紙工場はほぼフル稼働

ハリマ化成グループ(4410)は20年3月期の連結業績について、売上高830億円(前期比5.6%増)、営業利益47億円(同0.7%増)、最終利益33億円(同20.1%減)を予想した。



米中貿易問題や中国経済減速など事業環境は厳しく、保守的に見積もったが、新中期計画に沿った拡大戦略を進めることで増収営業増益を確保する。最終減益は税効果会計により前期の利益水準がかさ上げされていたため。実質は増益で年間配当を38円(前期36円)へ連続増配を予定する。

中国山東省の新製紙工場も環境規制強化を背景に立ち上がりから順調で「ほぼフル稼働になっている」(長谷川吉弘社長=写真)という。

### カプコン

## 3期連続の最高益を狙う DL比率大幅拡大で利益率向上

カプコン(9697)は今20年3月期の連結業績予想を発表、売上高850億円(前期比15.0%減)、営業利益200億円(同10.2%増)、純利益140億円(同11.5%増)と2ケタ増益を見込んだ。



2ケタ減収の要因について野村謙吉取締役専務執行役員=写真は「ダウンロード(DL)販売比率が高まることで単価が下がるが、利益率は向上する」と語る。リピート販売が好調な「モンスターハンター:ワールド」は19年3月期の販売本数の大半がDLで、秋の大型拡張コンテンツ投入で更なる販売増を期待。DLの販売比率は前々期の38%から前期56%、今期は70%を突破、営業利益で7期連続増益、純利益で3期連続の最高益を狙う。

### TOA

## 前期に続いて増収増益 IoT対応とユーザー密着体制整備

TOA(6809)は20年3月期の連結業績について、売上高で490億円(前期比5.7%増)、営業利益で40億円(同2.5%増)、純利益で24億5000万円(同2.2%減)と、19年3月期の売上高463億3800万円(前の期比4.9%増)、営業利益39億300万円(同11.2%増)、純利益25億400万円(同17.1%増)に続いて増収増益を見込んでいる。

国内では商業施設、交通インフラ市場での販売が伸長し、海外ではインドネシアでの流通開拓やタイでの交通インフラ市場への販売が堅調に推移し、ベトナムでは官公庁向けが増加、エジプト向けの大型物件なども寄与している。今期は商品のIoT対応とユーザーに密着した営業、エンジニアリング体制を整備、各地域でのマーケティング機能を強化していく。

### ラウンドワン

## 20年3月期も増収営業増益 米国への出店を成長ドライバーに

ラウンドワン(4680)は20年3月期の連結業績について、売上高1093億円(前期比7.9%増)、営業利益118億7000万円(同3.7%増)、最終利益69億円(同3.6%減)と前期に続いて増収営業増益を見込んだ。年間配当は20円を据え置く。

中長期的な成長確保の観点から、米国への出店を成長ドライバーとして位置づけており、新規出店を積極的に進めることで、増収営業増益を確保する。米国では大型ショッピングモールへ32店舗を出店、キッズ無料キャンペーン、キッズプレイゾーンの導入やゲーム機ラインアップ充実などにより業績を拡大しており、出店を加速して早期に国内に匹敵する利益を確保できる体制を構築する。一方、国内は初期投資を抑え、高い投資効率が見込まれる物件に集中して出店を継続していく。

## ～決算情報～

### タキロンシーアイ

## 20年3月期2.4%営業増益 ヘキサケミカルとの連携に期待

タキロンシーアイ（4215）の20年3月期の連結業績は売上高1510億円（前期比0.2%増）、営業利益93億円（同2.4%増）、純利益135億円（同2.1倍）と増収増益を見込んでいる。

ポリカーボネート製採光建材が台風被害の復旧対応で伸長、災害復旧対応に絡んで農業用被覆フィルムなどの需要も増加している。工業用プレート関連が半導体・FPD設備投資減退の影響を受けているが、「今秋頃から回復を期待している」（齋藤一也代表取締役社長COO）とし、純利益は連結子会社のダイプラの固定資産譲渡で大幅な増益となる。機能性マスターバッチの開発力に強みを持つヘキサケミカル（東大阪市）には一部資本参加へ向けて協議を開始しており、連携による新たな領域への事業展開にも期待。

### 三社電機製作所

## 大型電源好調で増収増益 配当性向30%めどに実施の方向



三社電機製作所（6882）は20年3月期の連結業績について、売上高260億円（前期比6.7%増）、営業利益19億円（同3.6%増）、最終利益は13億5000万円（同0.8%増）を予想。

中国経済減速や設備投資先延ばしなど事業環境の厳しさを踏まえ、保守的に見積もったが、増収増益を確保できると見ている。

「素材関係向けに大型電源が伸びており、受注状況からも好調を維持できる」（吉村元社長＝写真）としており、電源機器が収益をけん引。半導体もSiC（シリコンカーバイド）パワーモジュールの量産でテコ入れする。現時点では配当は未定としたが、配当性向30%をめどに実施する考え。

### クボタ

## 2ケタ増収2割超の増益 1Q農機、建機伸び環境製品も増加

クボタ（6326）の19年12月期第1四半期の連結決算は、売上高4807億1200万円（前年同期比12.2%増）、営業利益528億8100万円（同20.5%増）、最終利益372億8200万円（同24.8%増）と2ケタ増収、2割超の増益で着地した。国内は農業機械と農業関連商品、エンジン、建設機械が揃って増加、海外では北米でトラクタや建設機械が大幅に増えたほか、タイの農業機械が大幅に伸びた。パイプインフラ関連製品ではダクトイル鉄管が拡大、環境関連製品は福島県双葉町の廃棄物処理施設向けが増加している。

通期は売上高1兆9700億円（前期比6.5%増）、営業利益2000億円（同5.6%増）、最終利益1450億円（同4.6%増）と期初予想を据え置いた。為替レートは1ドル108円、1ユーロ122円を想定している。

### ユナイテッドアローズ

## 通販サイト運営体制を刷新 20年3月期8.2%営業増益見込む

ユナイテッドアローズ（7606）の20年3月期の連結業績は、売上高1642億4000万円（前期比3.3%増）、営業利益119億7000万円（同8.2%増）、純利益67億円（同4.4%増）と増収増益を見込んでいる。

今下期を目処に実施する自社ネット通販サイトの運営体制刷新に向けた準備を進め、実店舗とネット通販を自由に使い分けができる環境を整備。実店舗においては主に商品管理などの店舗付帯作業を担当するパートタイム労働者の採用を増やし、正社員が接客販売に注力できる体制を整え、販売力を強化。ユナイテッドアローズ本体では新規出店11店舗、退店6店舗とし、台湾ではユナイテッドアローズ グリーンレーベル リラクシングなどの期間限定店舗の出店も計画している。

イートアンド  
(2882)

# 20年3月期も最高業績へ フルライン型フードメーカーの地位確立

品5品・リ  
ニューアル  
品7品を投  
入し、その  
中でも「大  
阪王将 羽根



大阪王将 羽根つき焼き小籠包

イートアンド(2882)は全国の生活協同組合や一般量販店、さらにはインターネットで「大阪王将」ブランドなどの冷凍食品を販売、これと併せて大衆中華料理の「大阪王将」を主力にラーメンの「よってこや」、「太陽のトマト麺」、ベーカリーカフェ「R Baker Inspired by court rosarian」などの外食チェーン店を展開する、フルライン型フードメーカーである。

今年2月に新商

つき焼き小籠包」は好調な出荷を続けており、今後も主力商品の強化とヒット商品の創出を進め、様々な食シーンに対応。また、外食事業における主力業態である「大阪王将」が今年9月に創業50周年を迎え、記念キャンペーンなどの取り組みを推進する。

さらには現関東工場隣接地に新関東工場の竣工を今秋に予定しており、より一層「フルライン型フードメーカー」としての地位を確立していく方針。これにより、20年3月期の連結業績は売上高で304億円(前期比4.2%増)、営業利益で9億1500万円(同9.7%増)、純利益で3億5500万円(同5.6%増)と19年3月期に続いて増収増益かつ過去最高業績の更新を見込んでいる。

大阪王将は創業50周年

特選銘柄

## 購読会員募集中!

証券市場新聞では、購読会員を募集しています。

高野恭壽の  
株式情報 **これでどや!!**

大阪で600人越えの集客を記録、アンケート調査で「是非聞きたい講師」全国第1位  
人気株式評論家 高野恭壽の株式マガジン!

<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

証券市場新聞 公式メールマガジン

優良銘柄に加えて新興銘柄のタイムリーな限定情報が満載!

<https://www.mag2.com/m/0001678061.html>

## 潮流

## 令和新時代に日本が進む道

## 大胆な財政出動で企業に活力を！

marKet / bAnk



令和の新時代が始まった。敗戦後の荒廃から立ち上がり、成長に次ぐ成長を重ねた昭和。その時代は多くの人々には生きる希望と夢があった。昭和最後の年である1989年末に日経平均は3万8915円の過去最高値を付けた。平成は一転、衰退の時代となった。無理な成長のツケが回り、平成の始まりと同時にバブル経済がはじけた。企業は設備・人員・債務の3つの過剰の処理に追われ、1990年代後半からのデフレスパイラルを招いた。2009年には7054円とバブル後の最安値を更新。平成は過去の成功体験にとらわれ、やるべきことから目をそらしてきた不作為の時代でもあった。

国内産業が長期低迷する中、超円高と株安が進み、製造業は中国など賃金の安い海外に拠点を移さざるを得なかった。円高と株安に歯止めをかけることが出来なかったことが日本の衰退を招いた。この責任は政府と日銀にあることは明白だ。2012年に安倍政権が発足し、日銀が異次元の量的緩和金融政策を打ち出したことでようやく円高・株安に歯止めがかかったのだ。1990年後半、インターネットが普及しアマゾン、グーグル、アップルがネット時代を牽引した。経済力を失った日本はデジタル時代へ

とカジを切れず、その結果、賃金と経済がともに低迷を続けた。デフレが本格化する前の97年から21年間で平均賃金は8%も減り、名目国内総生産(GDP)は3%弱しか増えなかった。令和時代は高齢化が

加速度的に進む。現在と同程度の出生率が続いた場合、2036年には3人に1人が65歳以上となる。一方、15～64歳の生産年齢人口は30年後の49年に約5300万人と現状から3割減る。人口減が続くなか、自動化できる仕事は機械にまかせ、働き手はより付加価値の高い仕事に専念する。政府は「賃上げ」と唱えるだけでは済まされない。日本の生産性を高め、賃金増と経済拡大の好循環をつくるのが人口減と高齢化を乗り越える道だ。

日本の1人当たり労働生産性は経済協力開発機構(OECD)加盟36カ国中21位だ。特にサービス産業は生産性が低く、改善の余地は大きい。政府は日銀だけに頼っている場合ではない、大胆な財政出動でまず経済を再浮上させ、企業に活力を与えることだ。

潮流銘柄はメディシノバ・インク(4875)、ダブルスタンダード(3925)、リネットジャングループ(3556)。

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

## 生産性高め賃金と経済拡大

メディシノバの日足チャート



# 買戻しの動きは近い

## 高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

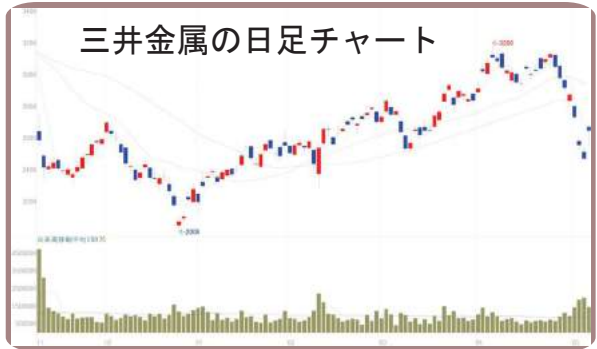
長かった連休も終わってみれば、それほど長く感じませんでした。筆者は日頃なかなかできない部屋の整理や相場の情報の見直しなど、結構、忙しくしていたので、そう感じるのかもしれない。と、かく令和時代の相場の幕あけです。連休中の海外市場は、2日に米国株式がパウエル連銀議長が金融政策を現状維持としたために失望売りで反落してしまいました。しかし、3日には4月の雇用統計が予想を大きく上回る26万人の増加が歓迎されて200ドル近く戻していきま

した。これで10連休明けの東京市場は期待できるとみられたのですが、トランプ大統領の対中関税引き上げツイートの引き金となり、5月第2週は波乱の動きとなりました。中国・劉鶴副首相の交渉団は予定通り、9、10日に訪米しており、米中の交渉結果が10日に発表されたようです。この欄を執筆している段階では、その内容は明らかになっていませんが、2000億ドル分の中国製品に関税を10%↓25%に引き上げられれば、中国経済には大きな打撃になることは間違いありません。中国の交渉団は、これをなんとか食い止めたいはずですから、何らかの合意にまとまるか、交渉継続になると見えています。東京市場では逆行高となっていた医薬品など一部の内需系も反落するなど、内需を問わずに下落し、日経平均は筆者が想定していた下落のメドを割りこみ、2万1300円台まで下落しました。ここまで下落したことで、ほぼ米中協議の失敗は一日で済んだと思われ、割れ目まで売ると材料面で織り込み済みとなり、一旦、買戻しの動きが強くなっていくとみられ

## 市況好転で非鉄金属反転へ

ました。これで10連休明けの東京市場は期待できるとみられたのですが、トランプ大統領の対中関税引き上げツイートの引き金となり、5月第2週は波乱の動きとなりました。中国・劉鶴副首相の交渉団は予定通り、9、10日に訪米しており、米中の交渉結果が10日に発表されたようです。この欄を執筆している段階では、その内容は明らかになっていませんが、2000億ドル分の中国製品に関税を10%↓25%に引き上げられれば、中国経済には大きな打撃になることは間違いありません。中国の交渉団は、これをなんとか食い止めたいはずですから、何らかの合意にまとまるか、交渉継続になると見えています。東京市場では逆行高となっていた医薬品など一部の内需系も反落するなど、内需を問わずに下落し、日経平均は筆者が想定していた下落のメドを割りこみ、2万1300円台まで下落しました。ここまで下落したことで、ほぼ米中協議の失敗は一日で済んだと思われ、割れ目まで売ると材料面で織り込み済みとなり、一旦、買戻しの動きが強くなっていくとみられ

ます。何れにしても過度に下押しした銘柄は買戻しの好機になりま。電子部品などはオムロン(645)、ローム(6963)あたりは打診買いを入れることも一策と考えて居ます。日立製作所(6501)、京セラ(6971)も要注目です。また、下落に加速がでていた非鉄金属も米中協議が峠を越えれば低迷していた市況も好転することになりますので、大きく戻す可能性が高いと思われます。三井金属(5706)、三菱マテリアル(5711)、住友金属鉱山(5713)、大阪チタニウムテクノロジーズ(5723)などに打診買いしナアンピンの勢も。アンジェス(4563)は7日の上げ分がほぼ行つて来いなりましたが、再び、仕切り直して戻す動きになるものとみています。





# 星野三太郎の株街往来

## ～成長は止められない?～

10連  
 休中は減多にない普段でない仕事を片付けようと当初は思っていたが、自治会の集まりや学生時代の友人と久々に飲み交わしたりしていたら、何もできずに連休が過ぎていった。筆者は元来、追い込まれないと行動しない性格だが、生まれつきの性格は死ななきや治らないのかな?と改めて思ってしまった。

ただ、連休中にこれだけやっておこうと決めていたスマートフォン機種変更だけは無事完了した。3年程度使用していた端末のバッテリー劣化が限界に来ていて取材時の外出先で急ぎの電話が出来なくて難儀していたこともあった。筆者の場合はスマホでゲームはしないので、通話とメール、株価が確認できれば十分。高価なiPhoneは不要なので、今回はほぼ1年型落ちの中華端末に格安で変更した。

米中貿易摩擦でも槍玉になつていたが、1週間程度使用した感想としては、ゲームに拘るコアなユーザーには不満な性能でも、筆者のようなライトユーザー向けには使い勝手を良くしているというところ。日米の企業は見忘れていた本質に気付かないと中華企業の成長は止められないと思う。



## New product

### ASAHI L-92乳酸菌で脱水対策 メンテナンスウォーターとゼリー



メンテナンスウォーター



メンテナンスゼリー

アサヒグループホールディングス(2502)グループのアサヒ飲料は、「カルピス」由来の乳酸菌科学シリーズから、夏場の体調管理と脱水対策をサポートする「メンテナンスウォーター」from「守る働く乳酸菌」PET490mlと「メンテナンスゼリー」補水設計from「守る働く乳酸菌」180gを、6月11日から全国で発売する。

「メンテナンスウォーター」は、日常の水分補給に適した、補水設計にするだけでなく、爽やかなレモン風味で軽やかな飲み心地。「守る働く乳酸菌」は「L-92乳酸菌」、「クエン酸」、「ビタミンB群」を配合した爽やかなレモン風味の脱水対策ゼリー飲料。

## 今年も全国8カ所で

### 住友ゴム工業

### チームエナセーブ未来プロジェクト



博多湾・和白干潟の自然保護活動(福岡県) 26日  
 歴史遺跡・自然・丘陵の新津を5月

全・整備プロジェクト」を皮切りに、今年も全国8カ所で予定している。  
 「チームエナセーブ」は、低燃費タイヤ「エナセーブ」シリーズの売り上げの一部を活用し、DUNLOPとその商品を使用するユーザーが一緒になって行う環境保全活動で、「チームエナセーブ 未来プロジェクト」と「チームエナセーブ GRE ENプロジェクト」の二つの活動を行っている。「チームエナセーブ 未来プロジェクト」は、2013年から実施しており、日本全国で失われつつある文化や自然環境を保全するために取り組んでいる協働事業。

## 企業レター

住友ゴム工業(5110)は公益社団法人日本ユネスコ協会連盟との協働事業、「チームエナセーブ 未来プロジェクト」

日経225先物日足チャート



敏腕先物ディーラー  
**ハ千ロク**の裏話

**ボラテイリテイ高い**

**下げ止まると急反発も**

10連休後の国内市場は連休最後に突如でた米中貿易協議の決裂で軟調な動きからスタートした。追加関税を引き上げた日本時間10日の午後1時に向け緊張感が高まり、9日の夜間取引では日経平均先物で2万1060円まで下落した。5月限のSQ週だったため、10連休の影響もあり、追加関税は相場を崩す格好の材料となっている。さらに北朝鮮もミサイルを発射し挑発を始めていので、突発的な不安材料は増加するばかりだ。米国では「Sell in may」の諺がある。5月の株を売れ、そして9月の第二土曜日まで近付くな」と。現在、まさにその状況である。発表される企業業績も今期は減益を計画している企業も多く、業績への不安感も増している。

あまりポジションが積みあがってなかったのが幸いし、SQ値は2万1451円91銭と比較的落ち着いた値で決定した。また、相場を大きく傾かすヘッジファンドもVIX指数が23ポイント台を高く一旦下落した為、大きく資産配分の変更はなかったようだ。ただ、日米とも高値で揉み合っていた状況でのこの追加関税は相場を崩す格好の材料となっている。さらに北朝鮮もミサイルを発射し挑発を始めていので、突発的な不安材料は増加するばかりだ。米国では「Sell in may」の諺がある。5月の株を売れ、そして9月の第二土曜日まで近付くな」と。現在、まさにその状況である。発表される企業業績も今期は減益を計画している企業も多く、業績への不安感も増している。

ている。これらを相場に織り込む為の時間が必要のようである。

今週は今年1月からの上昇幅(約34%)の2万1058円、3月29日の安値(2万0911円)が必要な抵抗ラインとなる。抜てくと半値押し。2万0655円処が視野に入る。一方、戻りは転換線の2万1838円処、この水準は急落過程でできた窓埋め(2万1875・11円)水準でもある。もともと、連休前のポジションを軽くしていたため、投資家の買い余力は高いと見られ、下げ止まると急反発も十分考えられる。ボラテイリティの高いうで短期売買で臨みたい。(ハチロク)

**今週のスケジュール**

- ・17日 米5月ミシガン大学消費者信頼感指数
- ・18日 トランプ米大統領が輸入自動車への追加関税を判断する期限
- ・20日 1-3月期GDP(1次速報)
- ・21日 米4月中古住宅販売件数
- ・22日 4月貿易収支  
FOMC議事要旨公表(4/30~5/1開催分)
- ・23日 ユーロ圏5月製造業PMI  
欧州議会選挙(~26日)  
米4月新築住宅販売件数
- ・24日 4月全国消費者物価指数  
米4月耐久財受注

**編集後記**

連休明けの東京市場は4日続落となった。トランプ米大統領による中国製品関税引き上げショックに見舞われた令和相場はまだ白星がない。ただ、米中通商問題は簡単にケリがつくものではなく、紆余曲折があることは容易に想像できたこと。短期的な突っ込み警戒感が強く、週明けからは問題長期化を前提にした自律反発と銘柄選別の動きが強まるのではないだろうか。3月期決算の見通しは慎重だが、併せて自社株買を公表する企業が多い。令和相場の出だしは絶好の拾い場を提供している気がする。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。